



32-12-25

「青い芝」の会 発会式ルポルタージュ

落合清彦

その前日私達は高山氏邸で夜分遅くまで準備を整へた。何事に於ても共同の力は素晴らしいものだ。原田先生の御教示に従って私達は着々と仕事を進めた。金沢氏の御努力が最も大きく氏は額に汗されてガリを切った。能勢氏も彩管を揮はれ、私も苦手の毛筆を執った。

この盛會だ。まず山北会長の御病臥の旨をお断りし、金沢氏の開会挨拶がありそれに続いて山北会長代理として私がこの会の発会式までの経過報告をする。会則を役員協議で定めその運営を我々に委任されるよう、その旨の承認を満場一致の拍手で得た。そして会長はひとまづ山北厚氏に、会の氣付は山北氏方に置く提案も承認を得る顧問としてお願いした松本保平光明学校長の御挨拶と御教訓。踏まれてもくめげずにのびてゆくようにとの暖いお諭し。続いて整肢療養園の山本浩先生のお話し。日本人は熱し易く忘れ易い。今は肥料が利いているから何事をやるのにも具合がよからうが、苦境に立つ時があつてもペンションにならぬよう、寧ろ人に忘れられる時から本當の事が始まるのだという一種の文明批評的なスピーチであつた。それから高山氏御尊父の御挨拶。殊に役員の方々、一旦事を起したからはトコトンまでそれを貫き徹すことを望まれる。この御要望に我々は

発刊に際して

「青い芝」会報がこの様に早く発刊できた事は大きな喜びであります。これも本会に御寄附下された多くの方々、並びにこの印刷を免費以下でやつて下さった更正社取締役の大西さん(この方も身障者)の御厚意のおかげであります。今後この機関紙が会員の皆様の進歩向上に少しでも役立つよう、また、われわれの事を正しく社会に理解してもらうための一つの資料となり得るよう努力して行くつもりであります。(山北)

精いつばいお応えして行かねばならぬと思う。第一部が終了、つづいて第二部の人形劇に移る。日本女子大社会福祉科有志の諸嬢の手により、カラスの子供がヒーローとして活躍する童話劇。それが終つて人形の機構のタネアカシと持役担当の自己紹介、直ちに手風琴の伴奏で歌の練習がある。この間NTVの人々が来られ、八日に「青い芝」をテレビでとりあげるからというのでその打合せなど、なかなかいそがしい。十分間の休憩ののち第三部へ、時間が予定より大分のびて終つたため予定の映画の一本「動物園」の方を削ることを提案する。まづスライド、富津海岸での肢体不自由児童達の夏の海浜学校のルポが、それこそ、胸ふくらむ思いを見る者へもたらす。我々も出来たらいつの日か、このようなプランを持ち、それを実行したいと思う。このスライドの説明者が実に巧みで、そして清潔な後味を深わせて下さつた。私は誇張でなくしばしば恍惚とした。暗幕に遮られ場内は

本会の役員及相談、顧問
問左の様に決定した

- 会長 山北 厚
- 副会長 落合清彦
- 会計 高山久子
- 渉外 金沢英児
- 編集 能勢敦子
- 顧問 松本保平(都立光明養護学校長)
- 山本 浩(整肢療護園医務部長)
- 相談役 原田豊治(大森職安・身障者係)
- 工藤静枝(鉄傷運動務)

投書欄

片目

都電・都バスが私達に無料バスを出して
くれているは大田区在住の「青い芝」の
の会員にはさして利用価値は無い。五月の
身障者大会で映画を半額で見られるように
運動して居るとの話だったが、そんな事よ
り、私はむしろ大田区に多い私鉄・私バス
の「個性の画題(画題)のサービスタとして無料
運動を起して欲しい。私鉄は一応、改札口で
キップを買うから混んでも私など差支へは
ないもの、バスは本当に困る。何時どっ
ちへ揺れるか分らない中で、キップを買う
金を出す、その事さ(私達には容易ではな
い。荷物でも持つていたら事だ。映画は娯
楽として数えられるが、交通は子供でもな
いから楽しみではない。もつとも私達の
無料にしてくれたために私鉄・私バスの会
社が潰れるというのなら話は別だが...

あるのではないだろうか。そして、お互に
助け合い励まし合つていかなければならな
いのではないだろうか。

こゝに脳性マヒの会結成への一歩は踏み
出された。しかし、僕たちの力は大きくは
ない。で、始めは手広くやることをさせて
さし当り大田区及びその近辺ということに
した。そして、打ぐさ原田先生は職安
登録者の中から、僕たちは光明学校の卒業
生の中から脳性マヒの人たちを見つけて二
十人ほどの名簿を作つた。それにより八月
末の日曜日に発会式をあげることにして、
案内状の文案を作つてみた。しかし、いろ
いろな都合でそれは延期せざるを得なくな
つてしまつた。

だが、十月になると僕たち三人が改めて
発起人ということになり、会の発足への動
きは具体化してきた。まづ、会則の草案を
作り、会の名前を考えだ。杉の子会、「一
心会」そして、生きよう会、という深刻
(?)なものを出してきた。青い芝の会と
する事にした。この名は又何と明るく気持
のよいひびきをもつものだろう。又、案内
状や会則草案のガリ版刷りはすべて自分達
でやる事にした。僕たちにとつては何でも

青い芝の会!それは芝のように踏まれて
も踏まれても伸びていこうというところか
らつけた名前なのだ。

そもそもこの会の発端は、去る五月十九
日、大田区役所蒲田支所で開られた大田
区身体障害者福祉協会の集りに僕たち三人
(山北、高山、金沢)が参会したことから
なのだ。

僕たち三人は同じ光明学校という肢体不
自由児の学校を出た仲である。さて、その
日の帰り途三人で文字通りプラプラ歩いて
いると、ひよこり大森職業安定所の障害
者係である原田先生に出会つた。
「今帰るの?」その日の福祉協会の集
りに出られて挨拶をされた先生は、僕たち
の顔を覚えていられた。そして、一語に歩
き乍らいろいろ話かけてくれた。その中
「どうだ、脳性マヒの会を作つてみないか
と云われたことに僕たちの心は大きく動
いた。「え、作りませう」そこには何のため
ら「いなかつた。実際、その日の集りに出
てみて盲人、ロウア者、そして傷痍軍人
は夫々の部会をもつてゐるが、その他はす
べて肢体部にまとめられてゐる。一般に障
害が重く、そして全身的である脳性マヒの
人達は、他と十分協調していかなければなら
ない。作らな、又独自の部会をもつ必要が

自分でやつてみるのが何より大切な事だ
と思ふ。それが、皆機能訓練になる。そし
て、やつてみれば曲りなりにも何でも出来
るのだ。ほんとならなくとも何で出来
一枚一枚刷り上つていくそれをみる僕たちは
大きな喜びに包まれた。又有難いことには
発会式の会場も矢口保育園で無料で貸して
くれることになつたし、日本女子大の社会
福祉科の方からは人形劇などの特別出演
の申込みがなされた。その間、原田先生か
らは一方ならぬ御指導御支援を頂いた。

ところで、発会式には更に一段の生彩を
加えるために何か映画をということになり
丁度朝日新聞社に昔、光明学校にいた先生
がいられるのを幸ふ、「朝日」から映画を
借りようということになつて、一日僕たち
三人に原田先生で新聞社を訪ねた。すると
どうだろう、映画もさることながら、青い
芝の事を新聞にのせようといふのだ。す
ぐさま取材は始められた。そして、翌十月
十二日の朝刊全国版社会面のトップに大き
くのせられたのだ。「明るく育て青い芝の
会」と横に、そして、四段抜きに一行にわ
たつて「不自由な手を結び立上る脳性マヒ
患者たち」という見出しを掲げて。それは
感激だつた。すぐさま翌日からその反響は
現われ、各地から手紙が舞込み始めた。激
励や、協力申出や入会希望や...。そして、
御寄附造も...。正直のところ、一文無し
で出資した僕達に、それはどんなに有難つ
たことか。そして、数々の手紙によつて何
と力づけられ、又この企ての重要さと思ひ

知らされたことか。筆のおそい僕たちは、
その返事を書くのに追われて嬉しい悲鳴
を上げたものだ。しかし、数多くの手紙の
中には自分の苦境を訴えて考えさせられる
ものもあつた。前に書いたように、その障
害が重度である僕たち脳性マヒの者は、更
にすることがなかなか容易でない。そのた
め、うつろな環境において、日々を悩みや
不安の中に送り、或は友だちもいないに
一人淋しく暮らしてゐる人が決して少なく
はないと思うのだ。全く何とかなければ...
せひ、この会を作らなければ...。そして、
恵まれない人たちにさややかであつても何
か光を与えよう。そんな使命感をおびた気
持の中で、発会式を準備することへと三人は
我と我が身をかりたて、行つた。しかし、
僕たちのやることはたゞだとして、まじど
ろこし。幸ふ、中野の落合君、新宿の佐
野君、練馬の能勢さんが発会準備への協力
を申し出て下さつたのは大助だつた。三
人とも脳性マヒの方だが、遠いところをよ
く手伝つて下さつたことは大きな感謝だつ
た。だが、発会式の前、五日前から会長候
補の山北君が風邪をひいて寝込んでしま
う。発会式にも出られずともないという困つた
こと、又山北君にとつても惜しまれること
になつてしまつた。しかし、あとの五人で
前日は夜おそくまで準備に役頭し、かくし
て、三日文化の日には晴れの発会式を挙げ
ることが出来た。映画の時に使う暗幕も光
明学校と大森七中が貸して頂けたし...。
そして、案内状を出したのが大田区で約三

十通、それに大田区以外から出席したいと
云つてきてゐる人も少くない。一体何人位
集るだろう、とくに大田区からは?。それ
が数日間の僕たちの関心の的だつた。思
は、この会を作らうと思ひ立つてから半年
近く、その間多くの方々の並々ならぬ御支
援のもとに僕たちの手で、僕たちの会が出
来上つたことはほんとに大きな喜びだつた。
そこには感慨無量のものさであつた。しか
し、これまでの仕事はまだほんとの仕事で
はないとも云える。それは発会式をもつて
始まるのだ。

☆ 青い芝のカットの意味!

私達は各々一本の青い芝である。
お互いに手を取り合つて輪を作らう。
青い芝は、円を描いて、次第に拡大し発展
してゆく。

この度、本会初代会長として私が選ばれたのでありますが、私のような者には、申せばお坊ちゃん育ちで、未だ社会的経験にも乏しい年若い者に会長というふうな役目が務まりますかどううか、われながら心配致して居る次第であります。が、こうやつて会長に選ばれた以上は会員の皆様方、並びにその他の本会に御厚意と御援助を寄せて下さる方々の御期待に添うべく、鋭意努力して行くつもりであります。

高木先生より御激励

我が国、肢体不自由児療育の先覚者であり、現在も日本肢体不自由児協会会長として、日夜私たちのために御尽力下さつて居る高木憲治先生から、本会にあてて御手紙を頂きました。深く感謝申し上げます。その全文をかかげさせて頂く。

祝 御発会

絶対に中絶するが如きことなくいよいよ御進捗を祈る
大田区以外にも延び全国的結びつきが望ましい

「青S芝」の会によつて脳性マヒ患者のための種々の福祉更生施設を運営するようになり、それが目標でありました。しかしながら発足致しましたばかりの本会におきまして、いきなりそのような大きな仕事を出来なす相談なのであります。本会の当座の仕事をしましては地道に会の基礎をしっかりと固めることとあります。そのためには会員相互の親睦ということが、共通の賜を数多く持つということが必要であります。

「社会の片隅に引込んで向うから手を出してくるのを待つていたのでは、何時までも手を出してはくれないのであります。現代においては、こちらから積極的に関与することが必要なのであります。それをより効果的にするには、やはり、全国的な強い組織を持つ団体となる必要があるのであります。そして、そんなつた眺には、この

暗かつた、それにもかかわらず私はこのスライドからまぶしい光の渦を感じた。
「よ」よ最後、朝日新聞社の御好意による総天色長篇記録映画、「ロンドン—東京五萬軒ドライブ」が、「朝日ニュース」に続いて映写される。この映画も、私には機を得、所を獲たもののように思われた。
私たち身体障害者は、日頃とかくうちに引きこもりがちなもの。従つて象徴的な意味でも、戸外の空気を囓望する。この映画はその我々の内心の要求を、計らずも無言のうち、そつと叶へてくれていたかのよう思へた。せめて映画の上でも、自由に大気を浴びて下さないと云つて居るかのような、そんな嬉しいこじつけをひそかに持つたのは、私一人だけであらうか。
全プログラムが終つて五時、ホツと肩の荷をおろした感じだつた。当日参会して下さつた方々の殆ど全員に、「青S芝」の会員となつて頂けたのは、まことに嬉しく、さうしてまた我々役員に責任の重さを新に痛感させた事でもあつた。我々はこの発会式を、単なるお祭りの行事とすることなく、これから先の我々のしごとのための一つの足がかりとしてゆくように心せねばならないと思ふ。
ともあれ、我々「青S芝」の発会式は成功裡に終つた。我々のなすべきは、これから先に待つて居る。

山北 厚

「青S芝」の会によつて脳性マヒ患者のための種々の福祉更生施設を運営するようになり、それが目標でありました。しかしながら発足致しましたばかりの本会におきまして、いきなりそのような大きな仕事を出来なす相談なのであります。本会の当座の仕事をしましては地道に会の基礎をしっかりと固めることとあります。そのためには会員相互の親睦ということが、共通の賜を数多く持つということが必要であります。

に片輪であるうともその精神(心)は片輪になるな、というのを考えて居ります。それにはお互に気兼ねなく談笑し合ひ冗談を云い合う友人を持ち、極力外界社会の空気を敢うことが必要だと思ひます。故に、本会の任務の一つは家に閉じこもつて居られる方々を外に引張り出すこととあり、歩行困難な方や遠隔地の方には手紙とか訪問によつて多少なりとも外の明るく空気を送り込むこととあります。
その他、現在さし当つての本会の任務には、社会の表面から隠れて居る私たちの仲間を探し出すこととあります。これは特に会員の皆様方全部の御協力がなければ出来なすこととあります。こゝであらためて皆様にお協力をお願い致します。それから、私たちのことを社会(世間)に正しく理解してもらふP・R活動とか、あるいは、本会に御厚意を寄せて下さる各方面の先生方の懇談会を開くことや、普段緊張して居る神経(特に実社会に伍して行かれつゝある方々)を解きほぐすようなリクレーション的なことを行ふ事などがあります。更に、会員の有志の方々の御協力を得て、体が不自由なために基本教育を受けられずに居る方々のために、塾を開設するなり家庭教師をして回るなりするといふ事もあります。

会計報告

会計責任者である高山久子さんが、この度、北多摩の職業補導所に入所されて今の所忙しので私(山北)が代つて会計報告を致しますが、何分担当者でありませんで不備な点が多々あることを初めにお断りしておきます。

収入	三六〇〇円
会員会費	二五二六〇円
各方面よりの御寄附	六〇〇〇円
テレビ出演料	三三八六〇円
合計	三三八六〇円
支出	三三二六六円
発会式に必要な物品代	七五〇〇円
発会式の費用(通信費)	六九四四円
当日の菓子代等	一一四二〇円
NHK録音接待	一一四二〇円
合計	一一四二〇円
差引残高	二三四四〇円

私たちは他の障害者に比べ一般に障害が重く全身的でありますために、その更生はまゝならず精神的苦痛を味つて居る者が多いのであり、更に中庭以上の障害者の大半はその奇妙な体つきから自身も人目を避けがちがつた愛情等によつて家に閉じこめがちなために友だちもなくなりさびしく日々を送つて居るのが現状であります。この様な状態におきましてはとかく暗くゆがんだ心になりがちであります。しかし、それはいけません。私は毎日頭、肉体は如何

以上、甚だまとまりのない散文であります。が、私の考えております抱負を少しく述べさせて頂き、御挨拶に代る次第であります。

以上であります。この中、銀行へ二万円、郵便局へ三千元あずけてあります。

去る十一月八日午後一時二十五分から十五分間日本テレビ(N・T・V)の「私は知つてゐる」の番組で、われわれの「青い芝」の会のことが取り上げられて放送された。

十一月三日の発会式の一、三日前のことだつた。日本テレビから電話が掛つて「三日に会場へ映画をとりに行きます。そしてその放送当日に発起人の人たちにスタジオまで来て頂き、放送に出て頂きたい」と云つて来た。この電話があつた時私は、ウー、冗談が本当になつてしまつたと思つた。と云うのは、まだ大分以前のこと、この会設立を最初から面倒を見て下さる大森職安の原田先生が「テレビが写しに来たらどうする?」と私たち三人(金沢・高山・山北)に尋ねられたので、私たちは「テレビが来たらつかまひませぬよ。だげどそのテレビを見た人が金庫出まなくならんじやないかな」と云つて笑ひ合つた事があつたからだ。

さて、放送当日私たち三人と原田先生、高山さんの御母堂それに放送には出ないが私の父と、放送局差廻しの自動車で一時間放送局に行く。着くとまず紅茶を出されプロデューサーの根上さん、アナウンサー

それから三日にとつた映画の試写を見た後直にスタジオに入る。広いスタジオの向う側にも「出」を待つてゐる人がいて、そちらが終ると直ぐこちらの番だといふ。いよいよ向うの放送が始まる。一同静かにしてその様子を見る。それが終り、ついにこちらの番。

最初に発会式の模様が出、それを金原アナウンサーが解説し、続いていよいよ本番となる。そこで話されたことの要旨は次の通り。

「青い芝という名前の意味は」「人に踏まれても踏まれても強く明るく生きて行こうという意味です」(高山)

「この会を作つた動機と経過は」「これについては金沢君が答えたが、その内容は別掲「発会式まで」と大旨同じ」

「原田さんはこの会を作るのに色々面倒を見られて……」「私はたゞこの人たちの相談にのるだけ手助けしませんでした。何度か手伝つてやろうかと思つたが、自分たちでやらせる事がこの人達のためだと思ひやめた。しかし、よくこゝまでやつたと思う」

「今後の方針は」「家に閉じこもつていて分らない人々を探し出し、外に引張り出した」(山北)

「家に閉じこもつてゐる人は多いのですか」
「多いです。家門の恥とか、まちがつた愛情とかで親も閉じこめると、本人も外に出るのを恥しがるので。その点、この人たちの親御さんは偉い」(原田)
「親御さんとして同じ立場の親御さんに何か」
「なるべく子供を外へ出してあげて下さい。前には私も子供を外へ出しませんでした。が、次第に自分から外に出るようになって最初は心配しましたが、今では好きに外へ出させます。そして外へ出るようになってから性格が陽気になりました」
「初めは勇気がいるでしょうね」
「最初は人に見られていやでした。それに駅で切符を買うにも私の云うことが分らないので、紙に書いて行きました。が、その中駅員も私の云うことを分つてくれるようになりました。私も慣れて今では不見由しくありません」(高山)
「今すぐやりたい事は」
「会員を訪問して廻りたい」(金沢)

(山北記)

才一回役員会報告

十一月二十三日、高山さん宅で原田先生も交れて初の役員会を開き、左の事項を協議決定した。

一、会則本案の作成
二、本会でまづ取り上げられるべき具体的な活動目標

(一)教育の機会にめぐまれぬ 体不自由児(者)に対する基礎的教育措置
(二)主として機関誌による、社会に対する脳性マヒについてのPR活動

(三)この不足を補足すれば、身体が不自由なために特殊学校に行けなかつた、或は行けないで放浪されてゐる人たちが決して少くはないから、この人たちの存在は今日一つの社会的な問題ではないかと思われ。本会はこの点に着目し、それらの人々を個別的に、或は何かが集めて整形式で基礎的な教育措置を図らうとするものである。そのスタンプとしては、早大出で私立の学校の教員免許をもつてゐる落合君を始め、国学院大在学中の山北君、女子美大在学中の能勢さん、いさゝかなりとも貢献することがあると信ずる。尚、御希望の方は本会まで御連絡下さい。

十一月十四日、NHK第一放送、午後二時三十分「就職した肢不自由児」のプロに、おが「青い芝」の会が登場しました。原田先生が我が会の成立までをザツとお話になり、「脳性マヒの部会」の必要性と特殊性、およびその存在理由をつけ加へられました。つづいてわれわれにインスピレーションを向けられ、「青い芝」の会の主目的、趣意などを質されました。

会員は(大体四十人ほど、役員が五名、など)スタッフ()を紹介、その中でも、職に就いた者は五人ほど、それから学校教育を正規に受けられる可能性をもつてゐる人々は極めて少数者に限られてゐること親・兄弟の一種の無関心或いは無理解から、社会的遊業の途をはばまれ孤独地獄に陥るものがかかり多いのではないかと云つた。また仮にある容認の心にも就職したとしても、われわれ身体障害者は、どうしても仕事の能率という場になつとき、否が応でも冷厳なハンディキャップに直面せねばならなくなる。その時に雇主は一体どのやうにわれわれを遇するだらうか、などなどという問題を、一応のべ、さらし、われわれ「青い芝」の会成立の、同病者へもたらした反響の如何、すなわち、自分たちのやうな者でも、生きようと思ふ思ふ、どのやうにでもその道は見出されるものだと云う励ましを与えるに役立つたのではないかと云つた。

「青い芝」の会NHKに登場

落合清彦

とを説明、それに付け加えて、われわれ脳性マヒの間は、症状が全身的にかつ極めて重げに、一見何ともグロテスクにあらわれるため、世の人々からさながら白痴、キ形扱いをうけがちであるけれども、われわれの大半は、頭脳の方面に於ては劣弱の場合にはむしろ少く、往々にして健常者より鋭い智能を持つ者があること、通常の生活意志、勤労意欲は充分に持ち合わせておりながら、自己の意志表示の伝達機能の障害のため、心ならずも自己の欲することを叶へられずにおる例が非常に多いので、従つて性格破産の場合を危ぐされる向もあるとや聞くけれども、さういつた事は結果から来た本末顛倒で、われわれの場合には、その旺盛な生活への意志は却つて健康者

のものがあつたことを力説したのでした。話題は三転、われわれ「青い芝」の会の今後のありかた、及びその理想、抱負と云う甚だ栄光的な、けれども最も熱情的な問題をふくむ箇所へ到達、こゝでわれわれは声を大にして、われわれの考へてゐることを訴へたのでした。
東京都内だけに限つて考えても、いわゆる肢不自由者(C・P患者以外の者も含めた)はかなり龐大な数に上るに違いない。その場合、ハッキリとデーターが出ることは殆ど望めない。まして重度の(殊にC・P者)肢不自由者(児童も含めて)の潜在は予想よりはるかに多例と見ねばならず

更にしほつて、その潜在せる人々の中で正当な教育(あえて義務教育とは云わぬまでも)を受けつゝある場合を考へるのは、極めて困難なことなのである。

多くの場合、徒らに年を重ねて、なすことのない、生計の手段をもつこと等も望めぬ、と云うのが実情ではあるまいか。指導所や補導所はあるけれども、そこへ入所することのできる人の数もまた極めて限られてゐる。後は野放しというのが現状であつて見れば、これを何とかせねばならぬ。そこでわれわれの動く余地が出てくる。まづ足もとところから――大田区、及びその近傍区居住者の中の(とりあえずC・P)潜在者を顕在化すること。さうしてまづあらかじめのリストを作成し、相互の親睦をはかり、ひいては我等の手によるところの、(人数はどんなに小人数であつてもよ)さゝやかな私塾的職業の対象たらしめようと企圖してゐる。目下の念願はこの二ツにある。社会へ理解を求めためにも理想と現実の困難な兼ね合いを渡りつゝ、一歩一歩地に足をつけて進んで行きたいとかくわれわれは論を結んだのでした。

このわれわれの意向が、電波に乗つて全国に流れたことは、「青い芝」の会にとつても又多くの身体障害者にとつても、まことに意義ふかいことだつたと思ふのです。なおマイクは実際に工場で働いてゐる肢体不自由者へのルポを、その雇傭工場主の声と合せて、より建設的な後味をもつて、はなむけしてくれました。われわれは、こ

のような社会に対してのアピールを一再ならず行い、世の視聴をこのかくれた問題へ蒐めねばならないと思ふのです。その第一声として、われわれ「青い芝」の会の発言がとり上げられたと思ふわけであり、まことに嬉しいことだつたと思ふわけでありませう。

セツラル パーソ
C・P in cerebral Palsy (脳性マヒ)の略語

幸福な私

阿志賀俊範

あゝ私は幸福だ
たとえ小児マヒで立たねなくても
私の心はいつも楽しくゴムの様に
はすんでおどつてゐる
あの空の様に
澄みきつて輝いてゐる
そして私は誰からも愛されて健る
あゝ私は幸福だ

こゝに紹介しました詩は、十月十二日付の朝日新聞の記事を見て、遠く九州の大牟田から寄せられた手紙に同封されてゐた三編の詩の中の一つです。

作詩された俊範さんのお手紙により、下さつたお手紙も御母堂の御様子です。下さつたお詩からだけでも御家族の愛情によつてその心が歪んでないのが分ります。

ヒント

此の欄は重度の方やその御家庭の方の思付きなり、御工夫を書いて戴く欄で御座居ます。

アロマン・マー・コップ(倒れない食器)
一口に申せば「起上りコップ」の原理を取入れたコップです。蓋に二ヶ所穴があつて傾ければ適量の物が出るように成つて居てもし落しても蓋さえして有りますれば起上ります。二ヶ所の穴から流すので慌てずすみすみます。デパートの赤ちゃん売場にたしか御座いました。御値段は失念致しましたが二百円前後だつたと思ひます。
チャツクの利用法

此頃、子供服などにはよくチャツクが使われますが婦人物にはあまり使われて居りません。私共のも少しあれを利用していらいかでしよう。昨年デパートの靴売場でチャツク付きの靴をみつめました。あまり安いので、どうしたのにつけて聞きましたらデザインが悪くて売れなかつたのでした。私共にはもつたない話です。

編集後記

本会に御寄附下された方々の御芳名は誠に申し訳ないのだが次号回しにさせていただきます。

会員諸氏からの原稿をお待ちする。
会報名の題字の模様は能勢さんの才腕皆様良き年を迎えますよう。(役員一同)



33-3-25

塾の開設について

われわれがこの四月からジニクを開くことになつた動機というのは、こうなつた。

発会式後間もなく、この会にもつと具体的な活動目標が必要なのじやないだろうか、この会には何ら一定の目標がないという事が耳に入つて来るし、なるほど会員の進歩向上、相互の親睦、福祉的な活動、社会に対するわれわれのPRなど一応目標はあるが、それらは少し抽象的で弱いのではないか、それで、他人に尋ねられた場合、即座にこういう事を会ではやつてゐると云えるような事が欲しい、というようなことが役員の間で話され始めた。そして、偶然にもわれわれは各々、正規の学校教育からオミットされてゐる肢体不自由児に、幸にも正規に教育を受けられた者としてそれらを少しでも教えてあげたい、という気持を等しく抱いてゐた。その結果が前号でお知り

発行所
大田区雪ヶ谷七五三・青い芝の会
印刷所
大田区調布嶺町二丁目三二
1958 更正社タイプライター・オフィス
編集責任者 能勢 敦子

せした役員会報告に見られる「基礎的教育措置」の決定となつたのだつた。さてそこで、家庭訪問による方はいゝけれども、ジニクの方は適当な場所がなければ出来ないのだが、おいそれとそれを見つけれそうもなく行悩み状態であつた。ところがそれは意外に早く実現することになつた。

旧年の十二月、光明学校々々で本会顧問をお願いしてゐる伊藤京彦先生から、役員の人たちと一度会いたいからと、一日役員一同お招きを受けて、先生の自宅に皆でおじやました。そしてその座の上ジニクの計画を先生にお話すると、「それは実にいゝ事だ。場所は、もしよかつたらこゝを使いなさい、この剣道場の一階を貸してくれと方々から云つてくるのを皆断つてゐるのだが、そういう事なら喜んで貸してあげよう」と云つて下さつた。そのお話にわれわれはとびついて直ぐ様

そこをお借りすることを決めてしまつた。こうして顧問、相談役の方々の御協力を得つゝこの四月開ジニクを目標に、色々と準備が始められ、目下その最中なのだ、更に、ジニクをどの様にやつて行くかの具体的な方法も決められた。

ジニクでの指導者には、未だこの仕事に海のものと山のものとも分らず、又果して成功するかしないか分らない試験的なものなので、初めは大体役員のみがこれに当り、同様の意味から教える子供も最初の間は五、六人に止どめる。教える子供は六、七才から十二、三才までの脳性マヒの児童とし、勿論勉強も大切ではあるが、脳性マヒに大切な機能訓練をわれわれの経験を生かしてより効果的に勉強と半々位に行う、教える日は週二回という事などを決定した。

実際、毎年度立光明義塾学校への入学が東大以上の特等門をかもし出しているのを見てもあるように、肢体不自由児の養護学校(施設)の絶対数が不足しているのだが、それらの施設からはみ出した子供たちは一体如何なるのだろうか。そのような子供たちを少しでも救う事が出来るだろうか、われわれのジニクの意味があるのだ。そして又、このジニクをやる事によつて、われわれだつて何かやれるのだ、という社会に対するアピールでありデモ・ストでもあるのだ。